動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）043（222）7207番

96.8.22 No. 4452

正念場を迎えた
1047名の闘い

清算事業団一〇四七名の闘いをめぐる攻防戦が激化している。年内にも清算事業団闘争を解体してしまおうとする動きが表面化している。分割・民営化政策の大破たんをめぐって解決不能の矛盾が噴出し、また、どうしても国鉄労働運動が潰せないという事態に直面して、支配階級は、改めて清算事業団闘争を圧殺しなければならないと考えている。一〇四七名の果敢な闘いが、国鉄労働者の団結の中心に存在し続けているからだ。清算事業団闘争は、彼らの急所に突きささった刺だ。「清算事業団闘争を潰さなければ一切の問題は前に進めない」……これが彼らの意図である。

秋に臨時大会？

七月二七―八日、国労全国大会が開かれた。ここでは、一〇四七名問題について、「情勢は煮詰まっている、舞台は回っている」との主張が繰り返しされ、「緊急命令を突破口とした政労資交渉によって年内に一〇四七名問題の解決を目指す」「場合によって、この秋にも臨時全国大会を召集する」という方針が確認された。これは、国労本部が、一〇四七名問題について、全員の現地・原職復帰ではなくて、「解決水準」を切り下げた、政治決着に全力を傾けはじめたことを意味する。

大会の議論では、闘争団代表から、「われわれはベストを尽くして金メダルが取りたい」という不屈の決意が示され、また「一部の議員が動きだしたからと言って期が熟したというのは大きな間違い。要求の切り下げにつながる」等の危惧の声がだされる一方で、「解決」のベースとして、(1)一〇四七名の名誉回復、(2)再雇用や解決金による経済的な解決の確保、(3)正常な労使関係の構築、の三つの条件が主張された。これは、明らかに、現地・原職復帰の原則の切り下げである。

「総選挙前決着」

「緊急命令を突破口とした政治決着方針」は、日共・革同路線であり、実際に水面下で動いている主導勢力は社民党である。とくに社民党は、総選挙が行なわれれば事実上消滅である。社民党が政権内にあるうちに決着をつけたい、という意向が情勢を動かし始めてきた要因にもなっている。

そして、橋本政権も「一〇四七名問題の決着」＝国労解体に向けて動きだしている。この背景には、明らかに沖縄問題がある。八月二八日に沖縄の軍用地をめぐる代理署名訴訟の最高裁判決があり、九月八日には沖縄の県民投票が行なわれる。燃え上がった沖縄の怒りが橋本政権をキリキリ舞させ、追いつめている。支配階級は、秋の臨時国会で沖縄特別立法を強行し、力で闘いをおし潰そうとしている。そのためには社民党を取り込まなければならない。こうした動きを見ると、明らかに深部で国鉄問題と沖縄問題がリンクして、「総選挙―臨時国会前決着」ということに一気に走り出してきていることについて、警鐘を乱打しなければならない。

東労崩壊の危機

こうした動きに対し、ＪＲ総連や革マル派は、尋常ならざる危機感を顕わにしている。「国労が闘争の幕引きに入ったことは、ＪＲ東日本とＪＲ東労組の健全な労使関係に対する破壊攻撃であり、しいては我が同盟に対する破壊攻撃である」と言うのだ。革マル派は、「悪魔の手先国労」と称し、異常な危機感で国労に襲いかかろうとしている。また、東労組の機関紙では、今秋の唯一の方針が「国労との闘い」だと提起されている。国労の民同、協会、革同執行部による「和解―幕引き路線」がＪＲ東日本、東労組、革マルに対する組織破壊攻撃であると言うのは奇妙キテレツな論理だ。しかし、これが現在の国鉄闘争の特徴を表している。

特にこの間の動きで象徴的なことは、ＪＲ総連高崎地本の高崎車掌区の二〇歳前後の三名の若い組合員が、自発的にＪＲ総連を脱退して国労に加盟したいと言ってきた。「国労は人間じゃない」等、あまりにもえげつないやり方に反発し、義憤に駆られて、自ら国労の門を叩いたのである。これに対し東労組は、「グリーンユニオン千名の脱退の比ではない重大問題だ」と言って、ＪＲ高崎支社と結託してなりふり構わず叩き潰しにかかった。東労組は、連日百名を超す動員によって高崎車掌区は動員者で一杯になり、乗務の到着線ホームや宿泊先まで動員者で満杯にして追及するという、まさに暴力的なやり方である。

ＪＲ総連は、当局と結託して動労千葉や国労を攻撃することと合わせて、ＪＲ総連の組合員に対する暴力支配を行っているわけで、このことに対する怒りが今やあらゆる職場で噴出し始めているという端的な現れが今回の高崎問題だ。だから、これは高崎だけでは終わらず、東日本全域に起こるということを見なければならない。

勝利の道は？

結局、一〇四七名の勝利を獲得する道は、ＪＲ東日本のなかにおいて、力関係を変換することだ。ＪＲ総連傘下の労働者を革マル支配から解放して、動労千葉や国労に結集して力関係を変えていくことのなかでしか一〇四七名問題の本当の意味での解決はなり立たない。

国労の今回の「和解―幕引き路線」、社民党を介して政府と取り引きして何らかの妥協点を見いだして決着をつけるなどということは、結局何も残らない、国労崩壊への一歩に他ならない。国労・動労千葉解体を叫ぶＪＲ総連を打倒しよう！

新たな10万人合理化粉砕！ 労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう！